
編集後記

日本超音波医学会の東北地方会では、毎年2回の学術集会を開催しています。春は仙台で、秋は東北6県の宮城県以外を順に巡回しています。今年の秋は、福島県で開催しました。最近は、発表件数も多くなり、そのほか、企業からのご支援による、機器を使用した実践形式のセッションも開催されるなど、それらを1日で、しかも、シングルセッションで行うため、1件当たりの発表時間、質問時間は、かなり短くなっておりました。しかし、大会長の高野真澄先生（福島県立医科大学）は、「学術重視」を目指し、企業による特別セッションは止め、一般演題や症例報告の講演時間と質問時間を、一般演題：講演時間8分と質問時間5分の合計13分間、症例報告：講演時間6分と質問時間4分の合計10分間と長く設定しました。その結果、1件当たりの質問件数が増えただけでなく、内容の濃い、充実した質疑応答の時間を可能にしました。また、最後の座長による纏めも、「次回までにここまで行ってください」という方向付けを助言されるなど、発表者にとっては、厳しいながら、発表し甲斐のあった、学術重視の学術集会になったと思います。

最近の様々な学会の学術集会では、兎角、催しものや特集が多くなっています。もちろん、参加者にとって新しい知的刺激を受ける点では、そうした内容も大切です。ただ、ご自分の発表をするために学術集会に参加した研究者にとっては、自分の発表を背景・目的から、手法・結果・考察まで十分に説明し、それに対して、会場から様々な角度の質問・意見を受け取り、今後の研究に繋げることが目的です。厳しい意見が出される場合もあります。それは、発表者だけに留まらず、参加者も、知見を得ることが出来ます。この形態が、学術集会の本来の姿だろうと思います。多くの一般発表者は、必死に発表し、聴衆も自分の経験や知識からその発表に一生懸命意見を述べる、その厳しいぶつかり合いの緊張感は、特集の催しにはありません。こちら辺に、学会の原点はあるように感じました。

金井 浩
東北大学大学院工学研究科電子工学専攻
／医工学研究科医工学専攻

超音波医学

Japanese Journal of

Medical Ultrasonics

第44巻 第6号（通巻第302号）

© The Japan Society of Ultrasonics in Medicine

—禁転載—

本体価格 2,000円＋税（本誌購読料は会費に含まれます。）

平成29年11月15日発行

編集者 公益社団法人日本超音波医学会編集委員会 委員長 金井 浩

発行者 公益社団法人日本超音波医学会 理事長 工藤 正俊

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-23-1

お茶の水センタービル6階

TEL 03-6380-3711

FAX 03-5297-3744

印刷所 大村印刷株式会社